

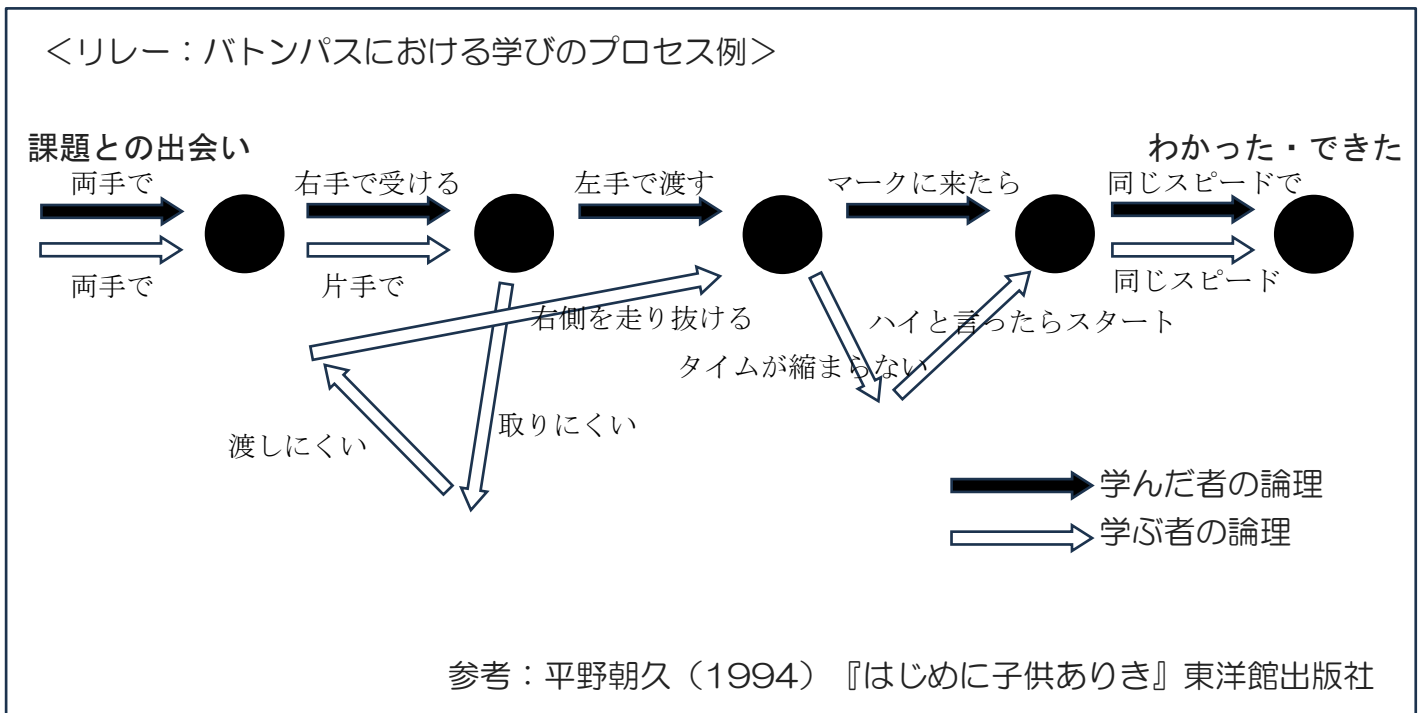
# 授業を行いながら、T2の先生と考えていること

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

大分県の体育専科教員配置校には、「原則として体育専科教員と学級担任によるTT指導を行うこと。」という縛りがあります。そこで私は、授業を行いながらT2の先生とよく、授業観、指導観について話しています。最近よく話すことを、二つ紹介します。

## ①「学んだ者の論理」と「学ぶ者の論理」の違い

私たちは子どもたちと違い、学んだこともあるし、授業もやったことがあります。その違いを理解した上で、授業では、子どもの学びのプロセスを大事にしています。



教師の専門性は何かと考えると

- ①授業を組み立てることの専門性
- ②教材に関する知識の専門性

などがあります。



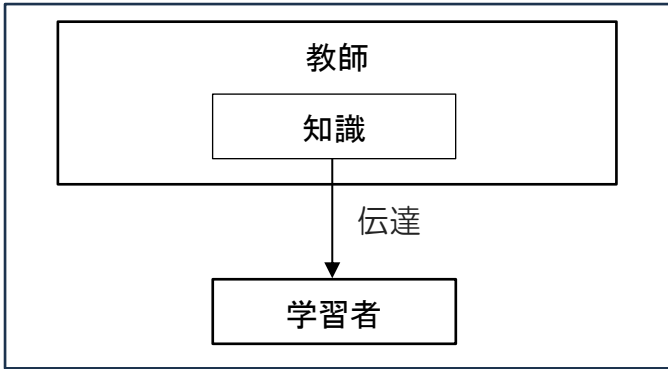
教師は子どもに、つい教えがちになりがちになりますが、いつも一方的に、運動のコツを教えるのではなく、子どもの学びのプロセスも大事にしています。



考える子どもたち  
(困りを大切に)

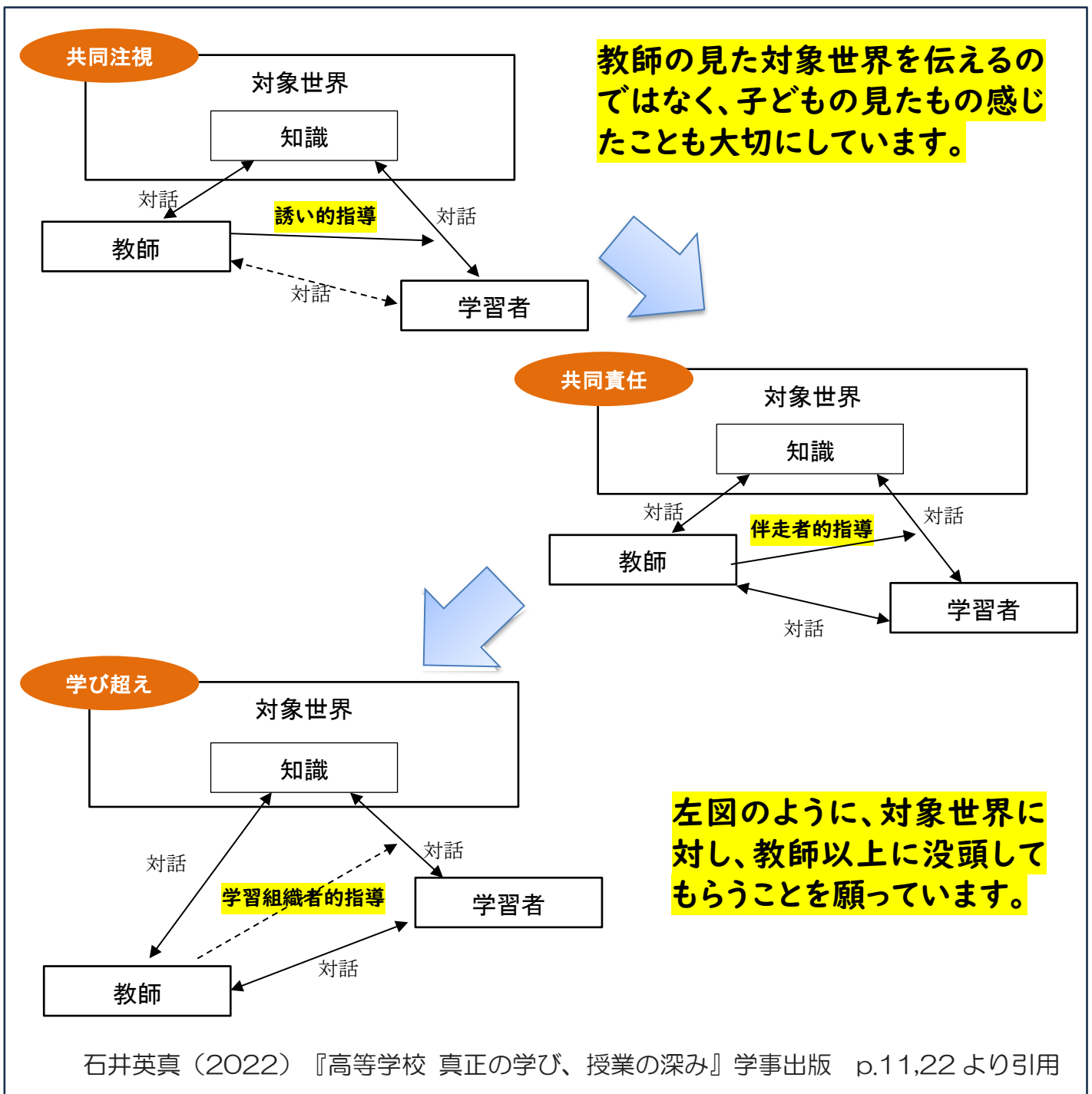


## ②没入する学びへ誘う学習環境づくり



体育だけでなく、鵜飼の鵜匠と鵜の関係のような授業は少なくありません。

子どもたちが、体育の教材に没入するために、三角形の環境を準備しています。



没頭して、課題を見つけ出し、



気づいたことを仲間に伝える。



8秒間リレー：最後のレース。



やったー！

よっしゃー！

やったー！

多くのチームが初めてゴールに間に合い、  
単元を終了しました。

自分たちであれこれ考えを伝え合いながら、学びのプロセスを経て、授業者以上に対象世界を味わっている子どもたち。

走ることのなくなった私ですが、子どもたちは完全に「学び超え」しています。

※T2の先生とは、このような授業展開をいつも考えています。